

長野県キャリア教育推進協議会の審議内容について

教学指導課

1 協議会の目的

本県におけるキャリア教育の在り方及び小学校・中学校・高等学校における一貫した系統的・体系的キャリア教育の在り方について協議し、「長野県キャリア教育ガイドライン」を策定し、各校のカリキュラムに反映させる。

2 協議事項

- (1) 小学校・中学校・高等学校における一貫した系統的・体系的なキャリア教育の在り方、各校のカリキュラムについて
- (2) 地域、企業等が学校のキャリア教育を支援する仕組みづくりについて
- (3) キャリア教育推進のための教員研修の充実について
- (4) 「長野県キャリア教育ガイドライン」策定とその周知方法について

3 委員名簿（五十音順、敬称略）

座 長	糸井 重夫	松本大学松商短期大学部教授
委 員	伊澤 宏爾	飯田市教育委員会教育長
	伊藤かおる	コミュニケーションズ・アイ社長、長野県教育委員会委員
	久保 正直	アスザック株式会社社長
	栗原 満	中野市教育委員会教育長
	玉井 康子	長野県若年者就業サポートセンター長野分室若年者就業支援アドバイザー
	直井 良一	元就職指導支援員（丸子修学館・東御清翔高校）
	藤澤 令子	長野県経営者協会課長
	伏木 久始	信州大学教育学部准教授
	三木 正夫	須坂市長
	和田 晶宜	長野ダイハツモーターズ社長

4 開催状況等

第1回（平成23年6月8日）

（協議事項）

長野県のキャリア教育の課題と今後の在り方について

第2回（平成23年7月22日）

（協議事項）

長野県キャリア教育の推進について

キャリア教育支援のための仕組みについて

5 今後の予定

第3回（平成23年9月21日）

（協議予定事項）

キャリア教育ガイドライン（案）について

第4回（平成23年11月11日）

（協議予定事項）

キャリア教育ガイドラインの決定とその周知について

長野県キャリア教育の推進（案）

1 目標

知・徳・体が調和し社会的に自立した人間の育成

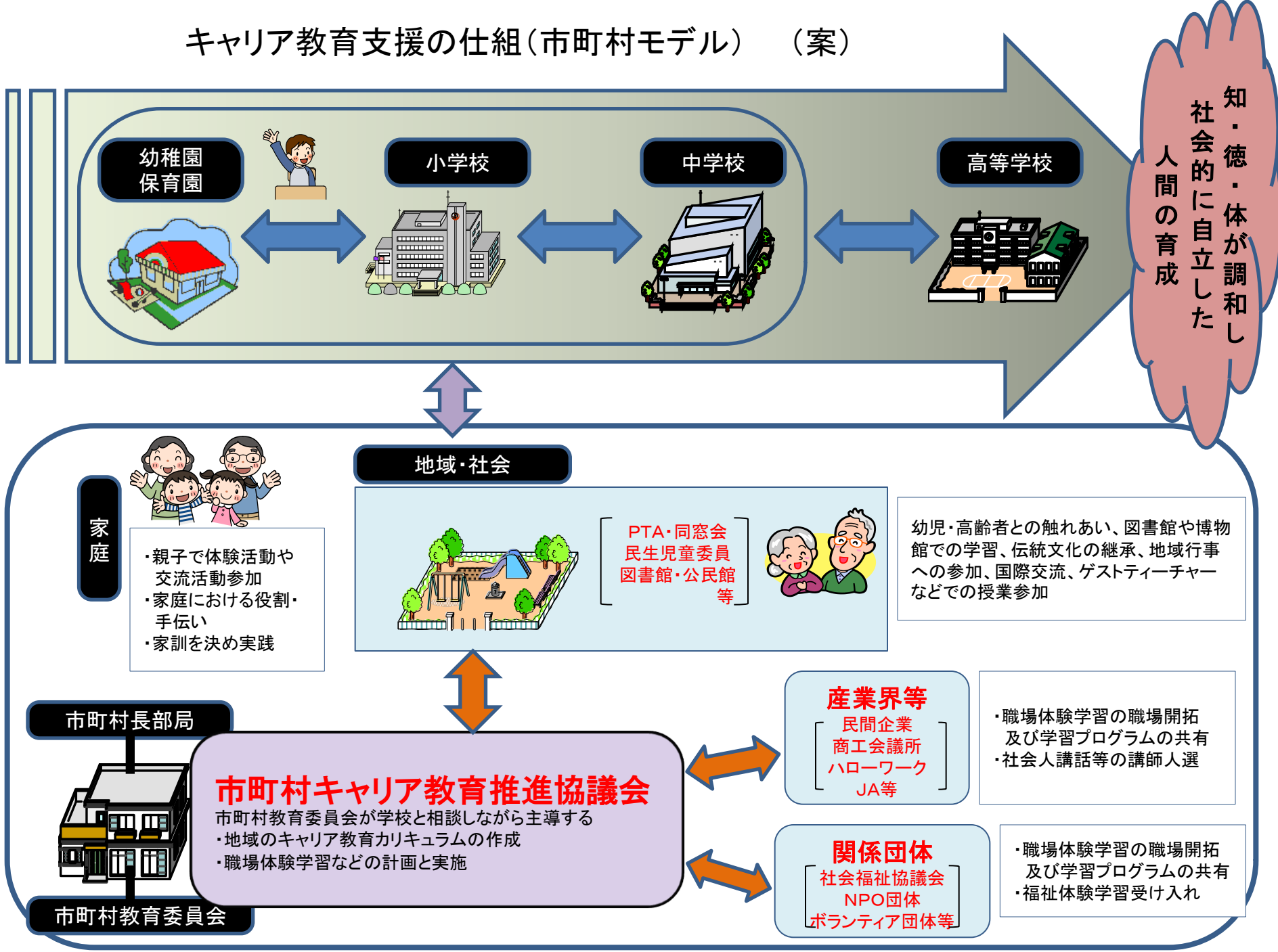
2 方針

- (1) 地域・社会の教育力を活かし、地域・社会全体で子どもを育てる。
 - ・長野県には人材・環境・文化等のすぐれた教育力がある。その力を活用する。
 - ・地域・社会でさまざまな体験をし、多くの人と触れあうことを通して、学ぶ目的や働く意味、生き方等について考えさせる。
- (2) 発達段階に即し、幼保・小・中・高一貫して子どもを育てる。
- (3) 各学校では既存の取組や教育活動をキャリア教育の視点から見直し、体系化する。

3 方策

- (1) 地域・社会の教育力を活用し、学校におけるキャリア教育を支援するための仕組み（プラットフォーム）を構築する。
- (2) 幼保・小・中・高を体系化したキャリア教育のカリキュラムを作成する。
- (3) 各校でキャリア教育の目標、指導計画の見直しを行うとともに事前・事後の指導を徹底し、特に自己評価（振り返り）を子どもたちに行わせる。
また、教職員のキャリア教育に対する意識統一を図り、指導力向上のための研修を充実する。
- (4) 県レベルで産学官等の諸機関、諸団体が連携する組織を作る。

キャリア教育支援の仕組(市町村モデル) (案)



キャリア教育支援の仕組(県モデル) (案)

23年度
産学官連携キャリア
教育推進事業

官

産

長野県キャリア教育推進会議(仮称)

産学官が連携し、長野県のキャリア教育を推進する牽引力となる

- ①全県のキャリア教育進捗状況の把握と、推進策や改善策の検討
- ②高等学校の広域的なキャリア教育の支援
- ③産学官の各機関、団体が実施しているキャリア教育の施策や取組みの連絡、調整(若年者の就労支援も含む)

知事部局
県教育委員会
県市長会
県町村会
長野労働局

社会福祉協議会
NPO団体
ボランティア

経営者協会
中小企業団体中央会
商工会連合会
商工会議所連合会

幼・保園長会
小・中・高校長会
私学団体連合協議会
PTA連合会
県内大学

関係団体

事務局
コーディネーター

学

情報交換、研究協議を県レベルで行う

県幼・保キャリア教育担当者研究協議会

県小学校キャリア教育担当者研究協議会

県中学校キャリア教育担当者研究協議会

高等学校キャリア教育担当者研究協議会

連携

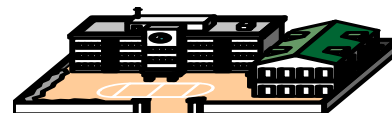
市町村キャリア教育推進協議会

市町村教育委員会が学校と相談しながら主導する
・地域のキャリア教育カリキュラムの作成
・職場体験学習などの計画と実施

要請
相談

人材派遣
企画提供

高等学校



「第2回長野県キャリア教育推進協議会」発言まとめ

平成23年7月22日（金）

◎協議内容

I 長野県キャリア教育の推進（案）について 概ね了承

II キャリア教育支援のための仕組みについて

地域・社会全体で子どもを育てるために、幼保・小・中学校段階では主に市町村が、高校ではより広域あるいは県レベルで学校のキャリア教育を支援する、市町村モデル（案）、県モデル（案）のような仕組みが必要

※主な意見

I 長野県キャリア教育の推進について

「1 目標」について

- 様々な願いが含まれており、理念としてよい。
- 「知・徳・体」の記載順は別として、これらは社会でも重要なものであり、この語によって目指すものがイメージできる。
- めざすものが広すぎるため、サブタイトルをつけてキャリア教育らしい内容にしてはどうか。
- 理念として理解でき、また既に「10年後の長野県教育のめざすべき姿」に位置していることから案の通りとし、サブタイトルを付ける。

「2 方針」について

- 学校では、これまでやってきたことをキャリア教育の視点から見直せばよい。
- （1）「地域・社会」に家庭を位置づける必要がある。
- 主体は教師だと思うが、サポートする体制が重要

「3 方策」について

- （3）「事前・事後の指導」という表現が何についての事前・事後指導なのかが分かりにくい。
- 学校から見て負担感のないものにしたい。その意味で、「評価」という強い表現でなく、「振り返り」でいいのではないか。

Ⅱ キャリア教育支援のための仕組みについて

「市町村モデル」について

- 資料では、幼保小中から家庭が離れて位置づけられているのが気になる。
- 市町村モデルは、地域によっては市町村の枠ではなく広域連合にした方が実情に合っている。
- 学校がコーディネーターの役割を担うことは無理

「県モデル」について

- 市町村ができない部分を県がフォローするモデルを基本にする。
- 市町村レベルから県レベルへの橋渡しが重要で、その意味でコーディネーターの役割が重要になる。
- 具体的な取組としては、全県的な職場体験リストを作ったり、ホームページを活用した情報提供等が考えられる。

コーディネーターの位置づけや担当者に関して

- コーディネーターは、別の組織の人間ではなく、教師がやるべきでは。
- ひとつの案として、コーディネーターは教師経験者が適任
- ジョブカフェ信州やNPOとの連携や活用が期待できる。

その他

- 地域を支える人材の育成とは、広い意味では、国際的な視野を持ちつつ、地域に思いを馳せることができる人間の育成をめざすこと。
- 学校もキャリア教育の実践の仕方をよく知らない。学校の要望に応えるためには、事例集など実践の仕方が分かるものが必要
- 企業が、就業体験や講話などに協力する場合は負担ばかりではなく企業側にとっても教え方の向上や、良い人材を得ることにもなるメリットがある。
- 再チャレンジの仕組みを盛り込めるとよいが、大きな課題であり簡単ではない。